

## お薬の管理とブラウンバックについて

病院で処方されたお薬（医療用医薬品）、市販で買ったお薬（OTC 医薬品）、サプリメントなどを使用している方は多いことでしょう。

保管の方法や残った薬の対応方法を見直してみましょう。



### 薬の管理について

～おうちのどこに保管していますか？

くすりは、温度や湿度により効果がなくなったり変質してしまったりする場合があります。車内や窓際などに放置せず、高温・多湿・直射日光を避け、決められた方法で保管しましょう。

冷所保存の指示のくすりは冷蔵庫に保管しましょう。  
誤ってくすりを飲んでしまうことによる中毒を防ぐため、乳幼児の手が届かない場所に保管しましょう。

### 薬の期限について

～以前もらった薬を飲んでいませんか？

薬の多くは製造されてから3年間有効とされています。  
でも、調剤させたときの有効期限は、当然それよりも短くなります。  
以前と同じ症状に思えても、同じ病気であるとは限りません。  
自己判断で安易に薬をのまないようにしましょう。  
もらった薬は指示通りに飲み切りましょう。

ちなみに、薬品本体に使用期限が書いてあるものがありますが、これらはあくまで未開封の状態での期限です。

軟膏やクリームチューブ類の塗り薬の使用期限は、使い始めてから半年以内、点眼薬は開封後の使用期限は、1ヶ月程度となりますので、注意が必要です。

万が一残った時は、かかりつけ薬局にご持参ください。

その時に使ってほしいのが、  
ブラウンバックなんです。



## 残った薬について

是非とも、かかりつけ薬局にご持参ください。

### ～ブラウンバック運動をご存じですか？

ブラウンバック運動とは、薬局が患者へ袋を提供し、自宅の薬を持参していただいて薬剤管理を行う取組のことです。名称は、1990年代にアメリカで茶色の袋が使われていたことに由来します。この取り組みにより、医療費削減や誤薬による患者さまへの薬物有害事象の予防を目指しています。

2020年には岡山県医療推進課、岡山県医師会、岡山県薬剤師会が連携し津山市及び苫田郡鏡野町でブラウンバック運動を実施しました。

### 持参した薬はどうなるの？

薬剤師はブラウンバックの中身を確認し期限切れの薬は廃棄しますが、まだ使用できる医療用医薬品であれば残薬処理のため医師へ疑義照会し、次回処方する際に処方日数を調整するよう提案します。

それにより患者さまの自己負担金が減額されることがあります。

### 取り組みのメリット

#### ① 医療費削減

2015年には残薬は年間500億円にのぼると言われていました。多くが税金や皆さまの保険料で賄う医療費です。減ることは国民みんなにもうれしいことです。

#### ② 服薬アドヒアランスの向上

服薬アドヒアランスとは、患者さまが自身の病気を受け入れ治療方針の決定に賛同し、その決定に従って積極的に薬物治療を受けることです。

#### ③ 飲み合わせの確認

患者さまのなかには、処方薬とサプリメント、OTC医薬品などを併用している方も少なくありません。ブラウンバック運動では、服用しているものはすべて持ってきてもらうため、残薬調整と同時に処方薬以外の薬との飲み合わせ（薬物相互作用）の確認もできます。

**ブラウンバックがなくても、ご自宅の袋に入れて、是非、残薬整理をしてみてください。**



サン薬局中央病院前店 武部裕子  
問い合わせ先：岡山県津山市こども保健部健康増進課  
TEL 0868-32-2069